

教員名	岩崎 忠	所属学科	地域政策学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>○本ゼミナールは、行政学・公共政策を中心に地方自治論を学びます。 地方分権改革、官から民への規制改革、市場経済の構造改革の流れの中で、自治体の現場がどのように動いていくか、状況把握に努め、現場を重視した研究を行います。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>○まずは、国や地方自治制度を十分に理解するために、社会科学一般に関する基礎的知識を習得します。次に、現場を分析する視点（ものさし）を学び、国・自治体現場をリサーチします。そして、最後に卒業論文の作成に取り組んでいくことになります。</p> <p>○具体的な進め方としては、以下の内容を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本書の輪読（パワポによる発表、ゼミ生全員参加の質疑） ・国・自治体職員（OBOGを含む）による体験談の紹介（職場紹介・試験対策） ・国・自治体へのインタビュー（国土交通省、群馬県、高崎市等） ・自治体への政策立案（実績：群馬県、高崎市、前橋市、佐野市、青森県田舎館村） ・合宿（実績：福岡市・北九州市、札幌市・小樽市、岩手県大槌町・釜石市等） <p>○2年後半から3年前半にかけては、基本書の輪読、担当箇所の報告・討議を中心に国・自治体へのインタビュー等（自治体への政策立案）を行います。3年後半から4年にかけては卒業論文の作成のための調査・研究・報告などを行います。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>○自治体を取り巻く法環境（制度）を学ぶことができ、かつ、政策立案等自治体の政策過程に必要な知識を習得できますので、公務員試験、行政書士試験、宅地建物取引士試験など各種試験対策に生かせることは間違いありません。さらに、公務員等に就職した後に、政策（制度）をいかに立案するかといった企画の仕事、自治体等の組織をいかにマネジメントするかといった組織管理の仕事、国・自治体、民間企業・自治組織等各種団体といかに連携して事業を進めるかといった組織間連携の仕事にも生かせます。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>○秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣、2010年</p> <p>○岩崎忠『自治体の公共政策』学陽書房、2013年</p> <p>○磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治(第3版)』北樹出版、2014年</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>○ゼミ生と教員が懇親を深めながら、明るく、楽しい、生き活きとしたゼミナールを行っていきたいと思います。将来、国・都道府県・市区町村などの国や自治体の公務員になりたい学生をはじめ、行政に関心がある学生が積極的にゼミナールに参加されることを期待します。</p>			

